

医の心と知識・技術

医学部長 吉永隆文



医学部への入学おめでとう。いずれの学科の新入生も、卒業の暁にはほぼ全員が医学・医療の道に進むことになる。学部教育の理念・目標と諸君の選んだ人生目標とが、最も一致している学部である。また、教育のために国民の税金を最も多く使っている学部でもあるから、初心を忘れず、国民の期待を自覚し、目標に向かって学習を継続して欲しい。

継続こそ力であり、目標に対する心構え、それに基づく学習の累積が良い成果をもたらすのである。入試の成績と卒業時の学業成績・卒業後の業績との間には、ほとんど関連性は認められない。試験のためだけの学習では知識・技術は身につかず、また、社会の役に立たないと言っても過言ではない。

医学・医療に携わる者には、医の心と知識・技術が要求される。ただし、前者を無視した知識・技術は生命を弄ぶ危険性さえある。近年、新聞紙上を賑わせた薬害エイズ事件、オーム真理教のサリン事件、誤った臨床試験などはその代表的な事例である。今、社会から最も求められているのは、生命の尊厳を基調とした医の心(豊かな人間

性、深い教養、倫理性)であり、生命に関わる行為者にとっては、絶対的必要な条件である。入学を機会に、生命の存在意義と医学・医療との関係について、今一度思索し、生命に関わる行為者としての使命を自覚して欲しい。

また、生命現象(健康や病气)に関わる要因は、遺伝情報と生活歴に大別できるが、生活歴に関わる環境条件は多種多様で、しかも複雑に生命現象と関連している。生活歴を要領よく正しく理解するためには、幅広く深い教養を必要とし、コミュニケーション能力、情報処理能力などが要求される。教養的教育を疎かにしないことが大切である。

医学・医療に関わる知識・技術は、広範でしかも高度化・専門分化し、さらに日進月歩の状況である。従って、これらの知識・技術の修得は、生涯学習として位置づけるのが常道である。

学生時代には、(一)患者・家族の生命や生存に関わる言葉・表現を、医学的に正しく理解でき、支援方法について分かりやすく、正しく説明できる能力、(二)他の医療関係者の言葉の意味と活動の価値を正しく理解でき、医療についての自分の考えを正しく伝達できる能



医学部附属病院

力を身につけることを念頭におき、知識・技術を修得するのがよいと考える。なぜなら、(一)はインフォームドコンセントにとって、(二)はチーム医療にとって不可欠な条件であり、これら二つの要件が揃わないと医療は成立しないからである。

現在の医学は、多分野の科学技術によって構成される総合科学である。その社会的適応である医療はオーケストラに喩えることができ。それぞれ固有の知識・技術を持った演奏者(医療関係者)が、観客(患者や住民)の要望(医療需要)に応え、指揮者(リーダー)の指示に従い、共にタイミング良く上手に演奏することによって、ハーモニーを奏でること(チーム医療)ができる。しかし、譜面を読

める知識と演奏しうる技術だけでは、観客、指揮者、演奏者が共に喜びを感じられるハーモニー(生命のハーモニー)とはならない。観客の気持ちが分かり、また指揮者や他の演奏者とのコミュニケーションを通じて互いの価値が分かり、さらに共に奏でるハーモニーを全員で共有・共感できる感性が必要である。感性を磨くためには、日常生活の中

で、自己、身近な人(身内、先輩・後輩、先生など)、それらの生命・生活現象に関心を示し、医学的に理解しようと試みることが大切である。例えば、生理学で、呼吸量、代謝量の算定方法を学び、試験には合格できても、実生活における自己の呼吸量や代謝量の見当がつかないようでは、呼吸機能に障害のある患者の日常生活に配慮することはできない。

試験のための学習だけでは、医学情報は一過性に脳に蓄積されるだけで、社会に役立つ知恵に結びつかないおそれがある。人への関心と思いやりが、知識を知恵に変換するのである。

医学・医療は、生命の尊厳を基調とした人類愛と、それに基づく社会の共感システムに根源があり、物を中心とした貨幣経済システムとは対立する場合もあり得る。これらの点にも十分留意し、社会の要請に応えられる医療人として育てて欲しい。

広島大学医学部は、他大学の医学部に比べ留年者が多いという非難がある。現在、カリキュラムを能動的学習を重視する方向に改善しつつあるが、医の心と目標が定かでない受動的な学習態度の学生は、留年もやむなしと思っている。健康づくりの三つの柱、栄養、運動、休養には十分留意しつつ、目標に対して能動的な学習を心掛け、有意義な学生生活にすることを期待する。(よしなが・ふみたか)